

藤井寺市公共施設景観ガイドライン

歴史文化の薫る藤井寺



個性とうるおいのある
景観をめざして

平成28年4月
藤井寺市

3 公園・緑地

(1) 良好な景観形成に係る全体の視点

公園・緑地は、身近なレクリエーションの場、市民や来訪者の憩いの場、良好な都市環境の形成、多様な生物の生息の場、災害時の一時避難場所など、多様な機能を兼ね備えており、市民にとって最も身近で大切な公共施設です。

そのため、公園・緑地における景観形成では、特に次の点に配慮することが重要となります。

基本方針（全体配慮事項）

【市全域】

- ◆ まちとの関わりを大切にする
- ◆ 市民に親しまれる場所とする
- ◆ 機能・施設と景観の調和を図る

【古墳周辺地区・古墳近傍地区】

- ◆ 古墳群の歴史的な雰囲気との調和に配慮する

公園・緑地において配慮・工夫すべき景観構成要素



(2) 景観構成要素別の配慮事項

① 植栽、境界部

【公園・緑地】

【市全域】 【古墳周辺地区】 【古墳近傍地区】

① 利用者をもてなす公園づくりをする

- ✓ 樹木や花などにより、うるおいのある公園づくりを意識しているか
- ✓ 樹木を植える場合は、利用者の休息や安らぎなどを意識しているか

② 周辺の緑との連続性を意識する

- ✓ 公園周辺にまとまった緑がある場合、緑の連続性を意識しているか

③ 公園内に死角をつくらない

- ✓ 公園内への見通しが確保されているか

④ 市民のまちづくり活動の機会とする

- ✓ 市民参加による計画づくりや緑化など、まちづくり活動の機会を意識しているか

● 景観配慮のイメージ (事例写真)



▲ 緑豊かな広場空間が市民の安らぎの場となっている【①】(枚方市)



▲ 隣接する公共施設の植栽と一体となって緑量を感じられる【②】(枚方市)



▲ 境界部に低木を用いることで、公園内への見通しが確保されている【③】(藤井寺市)



▲ 地域住民が緑を育むまちづくり活動により、公園への愛着心につながっている【④】(栗東市)

② あずまや、遊具、照明灯、トイレ等

【公園・緑地】

【市全域】

- ① 公園全体のまとまりや調和に配慮する
 - ✓ 公園内の施設全体の調和を意識しているか
- ② 地域の景観特性との調和に配置する
 - ✓ 住宅地や駅前などの地域特性を意識しているか

【古墳周辺地区】 【古墳近傍地区】

- ③ 古墳群との調和に配慮する
 - ✓ 色彩は濃い茶系又は自然素材の色を基本とする
 - ✓ 意匠や素材等は、古墳群の歴史的な雰囲気との調和を意識しているか

《参考》

「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン（国土交通省）」では、歴史的建造物の周辺や歴史的まちなみが形成されている地域における防護柵の色彩について、下表を基本としています。

色彩	色彩名	マンセル値
	ダークブラウン (こげ茶色)	10YR2.0/1.0 程度
	ダークグレー (濃灰色)	10YR3.0/0.2 程度

● 景観配慮のイメージ（事例写真）



▲落ち着いた感じられるあずまやが公園（ポケットパーク）の緑と調和している【①】（藤井寺市）



▲子どもが遊びたくなるような楽しさが感じられる遊具【②】（守山市）



▲落ち着いた色彩や自然素材を用いて、周囲の景観と調和している遊具【③】（藤井寺市）



▲トイレも和風でデザインし、公園全体の雰囲気と調和している【③】（守山市）